

要返却

整理番号 1術校R-砲術10

発行年月日 58. 9. 2

砲 戦 ・ ミ サ イ ル 戦

幹部中級(射撃・船務)課程

第 1 術 科 学 校

HP『海軍砲術学校』公開資料

目次体系の比較

改正案	現行教範
第1章 総則	第1章 総則
第1節 一般	第1節 一般
1101 砲戦、ミサイル戦の概念	1101 砲戦の要旨
1102 砲戦、ミサイル戦の要旨	1102 各級指揮官の責務
1103 各級指揮官の責務	1103 総合戦力の発揮
1104 総合戦力の発揮	1104 規律及び攻撃精神
1105 規律及び攻撃精神	1105 訓練の励行
1106 訓練の励行	1106 武器の整備
1107 砲システム、ミサイル・システムの整備	1107 弾薬の準備
1108 弾薬の準備	1108 対電子対策
1109 ECCM	1109 砲戦守則
1110 脅威の認識	
第2節 用語の定義等	第2節 用語の定義
1201 全般に関する用語	1201 水上砲戦に関する用語
1202 対空砲戦、対空ミサイル戦に関する用語	1202 対空砲戦に関する用語
1203 対水上砲戦、対水上ミサイル戦に関する用語	1203 対地砲戦に関する用語
1204 対地砲戦に関する用語	
1205 略語	

注: 1 □ は新設した項目
 2 □ は削除した項目
 3 □ は用字の修正程度でほぼ現行どおりの項目
 4 ↓ は現行教範の項目はその記述内容を改正案に取り入れたことを示す。

HP『海軍砲術学校』公開資料

第2章 対空砲戦、対空ミサイル戦

第1節 通則

2101 対空砲戦、対空ミサイル戦の価値

2102 対空戦の段階

2103 対空砲戦、対空ミサイル戦に当たり考慮すべき事項

2104 ミサイル防御対策

第2節 経空脅威

2201 経空脅威の一般的特徴

2202 ミサイルの脅威

2203 航空機の脅威

第3節 指揮

2301 戦術指揮官(OTC)

2302 対空戦指揮官(AAWC)

2303 局地対空戦指揮官(LAAWC)

2304 航空リード報告管制艦(ARRCS)

2305 戦間指揮官(艦長)

2306 データ・リンクによる指揮

2307 拒否による指揮(CONTROLS BY NEGATION)

第3章 対空砲戦

第1節 通則

3101 対空砲戦の価値

3102 対空砲戦に当たり考慮すべき事項

HP『海軍砲術学校』公開資料

第4節 対空戦区域の監視と対空警戒

2401 航空機による監視と警戒

2402 ビケット艦による監視と警戒

2403 味方部隊との関係

2404 脅威(対空)警報

2405 ESM捜索

2406 レーダー当直艦

2407 監視圏

2408 目視見張による警戒

第5節 対空戦陣形と各艦の占位

2501 対空戦陣形制形上の考慮事項

2502 各艦の占位のための考慮事項

2503 中射程SAM装備艦の占位

2504 短射程SAM装備艦の占位

2505 砲のみの装備艦の占位

第2節 対空警戒

3201 敵情の把握

3202 防空警報

3203 目標指示セクターの設定

3204 レーダー当直艦及びECM当直艦の指定

3205 射撃用レーダーによる捜索

3206 目視見張による警戒

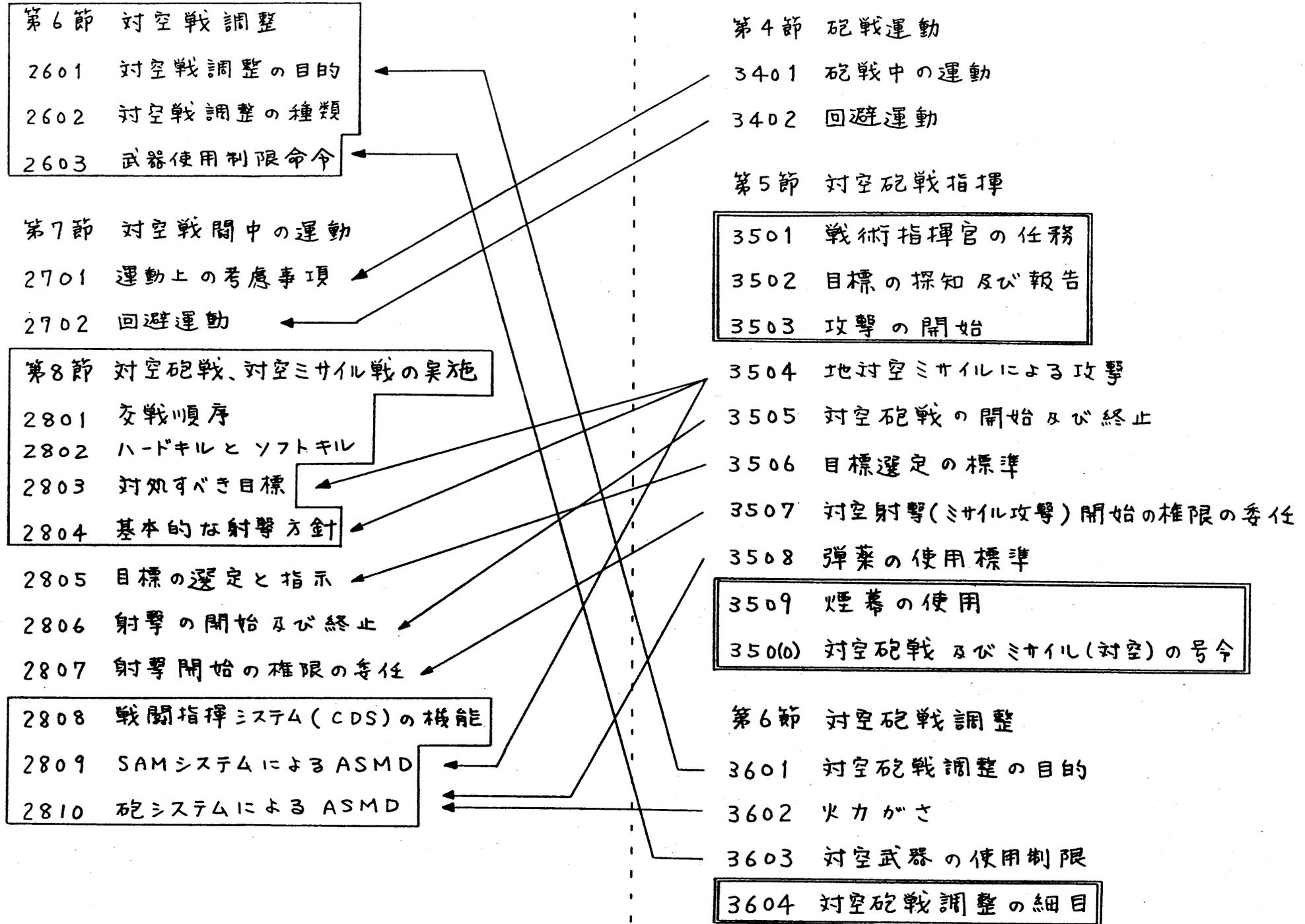
第3節 防空陣形

3301 防空陣形制形上の留意事項

3302 防空陣形の制形

3303 標準防空陣形

HP 『海軍砲術学校』 公開資料



HP 『海軍砲術学校』 公開資料

第3章 対水上砲戦、対水上ミサイル戦

第1節 通則

3101 対水上砲戦、対水上ミサイル戦の価値

3102 対水上戦闘の区分

3103 対水上戦闘の段階

3104 対水上砲戦、対水上ミサイル戦に当たり考慮すべき事項

第2節 水上脅威

3201 水上脅威の一般的特徴

3202 高速小型水上目標の脅威

3203 脅威(水上)警報

第3節 指揮

3301 戦術指揮官(OTC)

3302 水上戦闘グループ指揮官(SAG指揮官)

3303 戦闘指揮官(船長)

3304 データ・リンクによる指揮

3305 拒否による指揮(CONTROLS BY NEGATION)

第4節 準備段階

3401 準備段階中の考慮事項

3402 警戒航行と諸管制

第2章 水上砲戦

第1節 通則

2101 水上砲戦の価値

2102 水上砲戦に当たり考慮すべき事項

第2節 警戒

2201 警戒航行

2202 警戒配備

第3節 接敵及び展開

2301 接敵

2302 展開

第4節 砲戦対勢

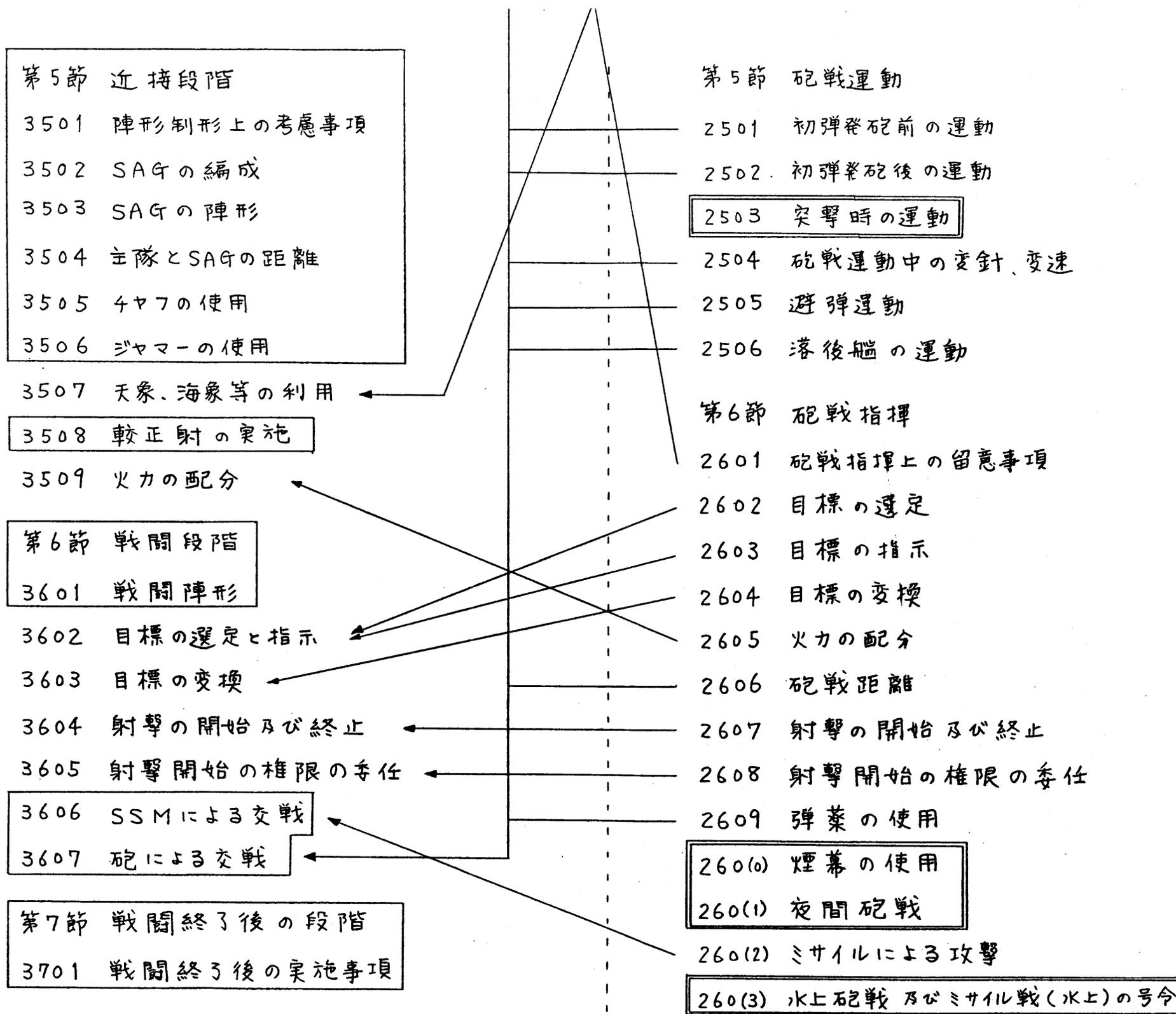
2401 有利な砲戦対勢の獲得

2402 砲戦対勢の要素

2403 有利な砲戦対勢獲得のための留意事項

2404 天象、海象等の利用

HP『海軍砲術学校』公開資料



第8節 高速小型水上目標との交戦

3801 高速小型水上目標の攻撃

3802 高速小型水上目標の探知

3803 高速小型水上目標の識別

3804 陣形の制形

3805 チャフの使用

3806 ジャマーの使用

3807 SSM、砲による交戦

HP 『海軍砲術学校』 公開資料

第4章 対地砲戦

第1節 通則

- 4101 対地砲戦の価値
- 4102 対地砲戦に当たり考慮すべき事項
- 4103 艦砲の特徴
- 4104 対地砲戦の区分
- 4105 砲システムの対地射撃能力
- 4106 弾薬の使用標準

第2節 指揮

第3節 対地砲戦の実施

- 4301 対地砲戦の推移
- 4302 砲戦運動
- 4303 地点(目標)の表示
- 4304 味方陸上部隊に対する安全

第4章 対地砲戦

第1節 通則

- 4101 対地砲戦における射撃の区分
- 4102 対地砲戦の価値
- 4103 対地砲戦に当たり考慮すべき事項
- 4104 艦砲の特徴
- 4105 弾薬の使用標準
- 4106 砲種の選定

第2節 対陸上支援射撃

- 4201 対陸上支援射撃
- 4202 砲戦運動
- 4203 砲戦指揮
- 4204 対地砲戦(対陸上支援射撃)の号令
- 4205 通信
- 4206 観測機の使用

第3節 沿岸射撃

- 4301 沿岸射撃
- 4302 砲戦指揮及び留意事項

HP『海軍砲術学校』公開資料

砲戦、ミサイル戦教範

目次

前文(参考)

1 目的

この教範は、艦艇による砲戦及びミサイル戦に関する教育訓練の準拠を示すことを目的とする。

2 記述範囲

この教範は、対空戦闘、対水上戦闘及び対地戦闘における砲戦、ミサイル戦について記述する。また、これらの砲戦、ミサイル戦に関連する戦術的事項についても一部記述する。

3 適用

現行に同じ

4 使用上の注意事項

(1) この教範の使用に当たっては、海上自衛隊用兵綱領、艦砲射撃教範及びCIC教範等関係教範を併用する。

(2) この教範は、行動における規範となるものではない。行動に当たっては、各部隊、各艦の現状に応じて作成した戦策及び準則等を活用しなければならない。

第1章 総則 13

第1節 一般 13

- 1101 砲戦、ミサイル戦の概念
- 1102 砲戦、ミサイル戦の要旨
- 1103 各級指揮官の責務
- 1104 総合戦力の発揮
- 1105 規律及び攻撃精神
- 1106 訓練の励行
- 1107 砲システム、ミサイルシステムの整備
- 1108 弾薬の準備
- 1109 ECCM
- 1110 脅威の認識

第2節 用語の定義等 15

- 1201 全般に関する用語
- 1202 対空砲戦、対空ミサイル戦に関する用語
- 1203 対水上砲戦、対水上ミサイル戦に関する用語
- 1204 対地砲戦に関する用語
- 1205 略語

HP『海軍砲術学校』公開資料

第2章 対空砲戦、対空ミサイル戦 -----	20	第4節 対空戦区域の監視と対空警戒 -----	27
第1節 通則 -----	20	2401 航空機による監視と警戒	
2101 対空砲戦、対空ミサイル戦の価値		2402 ヒョケット艦による監視と警戒	
2102 対空戦の段階		2403 味方部隊との関係	
2103 対空砲戦、対空ミサイル戦に当たり考慮すべき事項		2404 脅威(対空)警報	
2104 ミサイル防御対策		2405 ESM捜索	
第2節 経空脅威 -----	22	2406 レーダー当直艦	
2201 経空脅威の一般的特徴		2407 監視圏	
2202 ミサイルの脅威		2408 目視見張による警戒	
2203 航空機の脅威			
第3節 指揮 -----	26	第5節 対空戦陣形と各艦の占位 -----	28
2301 戦術指揮官(OTC)		2501 対空戦陣形制形上の考慮事項	
2302 対空戦指揮官(AAWC)		2502 各艦の占位のための考慮事項	
2303 局地対空戦指揮官(LAAWC)		2503 中射程SAM装備艦の占位	
2304 航空レイド報告管制艦(ARRCS)		2504 短射程SAM装備艦の占位	
2305 戦闘指揮官(艦長)		2505 砲のみの装備艦の占位	
2306 テレリンクによる指揮			
2307 拒否による指揮(CONTROLS BY NEGATION)		第6節 対空戦調整 -----	29
		2601 対空戦調整の目的	
		2602 対空戦調整の種類	
		2603 武器使用制限命令	

HP 『海軍砲術学校』 公開資料

第7節 対空戦闘中の運動 ----- 31

- 2701 運動上の考慮事項
- 2702 回避運動

第8節 対空砲戦、対空ミサイル戦の実施 ----- 31

- 2801 交戦順序
- 2802 対処すべき目標
- 2803 基本的な射撃方針
- 2804 目標の選定と指示
- 2805 射撃の開始及び終止
- 2806 射撃開始の権限の委任
- 2807 戦闘指揮システム(CDS)の機能
- 2808 SAMシステムによるASMD
- 2809 砲システムによるASMD

第3章 対水上砲戦 対水上ミサイル戦 ----- 41

第1節 通則 ----- 41

- 3101 対水上砲戦、対水上ミサイル戦の価値
- 3102 対水上戦闘の区分
- 3103 対水上戦闘の段階
- 3104 対水上砲戦、対水上ミサイル戦に当たり考慮すべき事項

第2節 水上脅威 ----- 42

- 3201 水上脅威の一般的特徴
- 3202 高速小型水上目標の脅威
- 3203 脅威(水上)警報

第3節 指揮 ----- 43

- 3301 戦術指揮官(OTC)
- 3302 水上戦闘グループ指揮官(SAG指揮官)
- 3303 戦闘指揮官(艦長)
- 3304 データリンクによる指揮
- 3305 拒否による指揮(CONTROLS BY NEGATION)

第4節 準備段階 ----- 43

- 3401 準備段階中の考慮事項
- 3402 警戒航行と諸管制

HP 『海軍砲術学校』 公開資料

第5節 近接段階 ----- 44

- 3501 陣形制形上の考慮事項
- 3502 SAGの編成
- 3503 SAGの陣形
- 3504 主隊とSAGの距離
- 3505 チャフの使用
- 3506 ジャマーの使用
- 3507 天象、海象等の利用
- 3508 校正射の実施
- 3509 火力の配分

第6節 戦闘段階 ----- 46

- 3601 戦闘陣形
- 3602 目標の選定と指示
- 3603 目標の変換
- 3604 射撃の開始及び終止
- 3605 射撃開始の権限の委任
- 3606 SSMによる交戦
- 3607 砲による交戦

第7節 戦闘終了後の段階 ----- 51

- 3701 戦闘終了後の実施事項

第8節 高速小型水上目標との交戦 ----- 52

- 3801 高速小型水上目標の攻撃
- 3802 高速小型水上目標の探知
- 3803 高速小型水上目標の識別
- 3804 陣形の制形
- 3805 チャフの使用
- 3806 ジャマーの使用
- 3807 SSM、砲による交戦

第4章 対地砲戦 ----- 54

第1節 通則 ----- 54

- 4101 対地砲戦の価値
- 4102 対地砲戦に当たり考慮すべき事項
- 4103 艦砲の特徴
- 4104 対地砲戦の区分
- 4105 砲システムの対地射撃能力
- 4106 弾薬の使用標準

第2節 指揮 ----- 58

第3節 対地砲戦の実施 ----- 59

- 4301 対地砲戦の推移
- 4302 砲戦運動
- 4303 地点(目標)の表示
- 4304 味方陸上部隊に対する安全